

全日本学生柔道優勝大会女子1部優勝・環太平洋大学



前田凜選手(2年)
三間中～比叡山高

山下明純選手(2年)
宇和島東高

団体戦で大学日本一を競う、今年度の全日本学生柔道優勝大会で岡山県のIPU・環太平洋大学女子柔道部が2年ぶり4回目の優勝を果たした。優勝の原動力となったのは、共に宇和島市出身の前田凜選手(2年)と山下明純選手(2年)の2人だ。未来の日本柔道を担う両エースに柔道への思いや、愛媛の選手たちへのメッセージを聞いた。



<前田凜選手>

三間中から比叡山高校(滋賀県)に進み、高2でインターハイ3位、高3で優勝を果たした前田選手。去年の全日本ジュニアに続いて、今年はグランドスラム・タシケントで優勝するなど、日本を代表する70キロ級の選手として日々成長を続けている。今大会でも決勝で1本勝ちを収めるなど優勝の原動力となった。全日本柔道連盟B強化選手

<現在の目標は？>

色々な大会があるんですけど、その1つ1つで優勝できるように頑張っていきたいです。それより先のことは、まだ…(笑顔)まずは1つ1つ足元をすくわれないようにいきたいなど。

<愛媛の子どもたちにメッセージ>

楽しく柔道することも大事やし、やっぱり監督や指導者の方に教えてもらったことを素直に受け入れ、たくさんの技を教えてもらって欲しい。自分の目標をしっかり掲げて、1つ1つを頑張りたいと思います。



<山下明純選手>

宇和島東高時代は2022年のインターハイで3位に。粘り強さと高い技術の寝技には定評がある。この大会では4回戦の龍谷大戦から出場。いきなり代表戦となり、勝敗が託されるプレッシャーの中で勝利をもぎ取り、優勝に大きく貢献した。

<現在の目標は？>

中四国インカレでは先輩と当たるんですけど、そこで勝負して全日本インカレにつなげて、しっかりとベスト8まで行く。その上で講道館杯に出場するのが目標です。

<愛媛の子どもたちにメッセージ>

トレーニングとか、基礎練習とか、打ち込みとか、そういう練習のほうが絶対にキツイと思うんですけど、そういう小さなことでも手を抜かずに1つ1つやり切ること。そこから柔道の練習につなげていくっていうのが一番大事だと思っていて。小さな積み重ねで手を抜かずやっていけば、絶対結果につながると思うので、そこを頑張りたいと思います。

宇和島市出身の2人は共に、まだまだ伸び盛りの大学2年。
故郷・愛媛の思いを背負って、国内の主要大会そして世界の舞台上で活躍する日も決して遠くない。

<文責>

愛媛県柔道協会
広報委員長 杉野一郎